

滿 支 視 察 談

(昭和 14 年 5 月 26 日講演會講演)

兒 玉 晋 匡 *

日本鐵鋼協會 講演會

昭和 14 年 5 月 26 日(金) 午後 6 時 35 分開會

司會者 吉川晴十君 只今から講演會を開會致します。初に滿支視察談を企畫院調査官、兒玉晋匡君に御願致します。

只今御紹介に預りました兒玉でございます。私此の度官命を帯びまして滿洲、北支、中支の方面を視察して参りました。視察の目的は生産擴充或は物動の方に關係して居りますがさう云ふ方面の御話は出来ませぬ。御話し得るものは所謂私が見て参りました程度のものであります。滿洲から中支に掛けまして 40 日間の旅行談で、何れも忙しい旅行で、皆さんに茲で御話する程の内容はないのであります。大體の概念だけ御話申し上げたいと思ひます。

先づ釜山に著きまして、皆さんも先刻御承知でしょうが釜山から北京行の汽車が出て居るのを見まして我國の大陸進出が力強く感ぜられました。これが今度の支那旅行の第一に感じた印象であります。それから山海關を抜けまして開深炭坑が盛んに活動して居りまして事變當時罷業があつたと云ふやうな形勢のないと云ふことも北支の治安が維持されて居ると云ふことを感じた一つであります。天津に著きますと非常に雑沓して居りまして、是こそ全く戦さが何時あつたかと思ふやうな状態で、内地人が日に日に入り込んで來ると云ふことで、最早北支は日本の勢力範圍に入居ると云ふことを強く印象付けられました。それから此の租界の方面は英佛人は非常に衰微して居るやうに感じました。例へばデパートの如きものも寂寥々として居る。斯う云ふことで、後で御話する上海の租界から見ますと云ふと全く寂漠を感じるやうな風に考へました。それから又支那人は非常に御世辭が好く、にこにこ笑ひながら我々を見受けて居る。如何にも御世辭を使って居ると云ふやうにも感じたことであります。北京に参りますと全く我が軍部の首腦部其他が集りまして、日本人が東亞平和建設におさおさ怠りないと云ふことは北京の何處を歩いても感ぜられます。第一要所々々に我が日の丸の下に將兵が立て居る。停車場に著きますと云ふと支那人は全部身體検査をして居

る。治安維持會或は治安維持會の支那人が何千人と云ふものを一々身體検査をして居る。我々だけがフリーパスであると云ふことは我々日の丸を仰いだ國の威勢が大いなることを感じたのであります。それから私は張家口に参りました。張家口は農村と云ふやうな感じがして、先づ昔からの田舎街と云ふ感じが致しました。是は御承知のやうに歴史的に非常に古い街で、昔は蒙疆の上海と言はれた位な農産物の集散地であります。街が古く、又は黄土で塵埃が酷く所謂住むのには如何にも不愉快を感じるやうな所でありますが、商賣に忙しい。農産物が盛んでであると云ふことが考へられます。

それから軍當局の御話に依りますと人民が非常にこちらを信頼して居る。我々の言を加へますと云ふと無智なんぢやないか、政治なんと云ふことは度外視して居るのぢやないかと云ふやうな意味にも考へられるのぢやないかと思ひますが、日本に非常に信頼して居る。さうして皆さんが宜いやうにやつて呉れ、我々は此の國を盛んなる將來ある國にする爲に如何にも努力するからあなた達は宜いやうにして呉れと云ふ傾向が見えて居る、従て北支蒙疆と云ふものの農業開發が最も易いのぢやないかと考へられましたのであります。それから此の邊は我々は沙漠……蒙疆と云ふと、もう沙漠か或は所謂オアシスなんかを想像して居たのであります。それから此の邊は我々は沙漠……蒙疆と云ふと、もう沙漠か或は所謂オアシスなんかを想像して居たのであります。樹木鬱蒼としまして水あり田あり少しも内地と變りがない、日本のやうな感じがするどうですか、沙漠は一つもないでせうと云ふやうな話をされたやうな次第であります。それから大同の方に参りまして、大同では石佛寺と云ふ有名な自然の岩を彫て、何萬と云ふ小さい佛體を彫り付け、其の眞中には奈良の大佛より大きい佛體を自然の石に彫た昔からの有名な寺がございます。其の邊の鑛山及石炭を視察しまして、引返しまして飛行機で南京に渡りました。

南京は皆さん先刻御承知の光華門の慘劇の跡、中華門其他日本軍の激戦の跡がまざまざと見られます。而も飛行機の命中率の的確なのに一驚を喫したのであります。此處

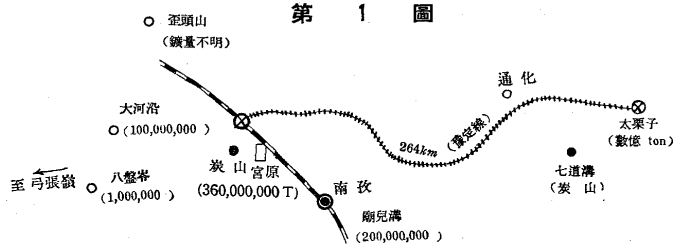
* 現高周波重工業株式會社顧問

は大分破壊されまして、北京の情勢とは全然違て、如何にも戦争のあつたと云ふことが想起される状態であります。接收しました建物は各部隊或は特務部或は病院其の他に利用されまして、宿屋の如きは非常に拂底しまして、軍隊の援助の下に俄にホテルを作て居る。従て軍其の他の公用の客が多くて、ホテルに入ることなかなか出来ないやうな状態であります。有名な孫逸仙を祀た中山陵其他のものを見ましたが、中山陵の如きは日本の軍隊の保護に依て一つの弾痕もなく、之を護て居ると云ふことは如何に正義日本の戦であるかと云ふことが分たのであります。それから漢口に参たのであります。漢口は現在非常に不便で又交通もまったく開けて居りませぬし、又航行が禁止され外國の船はありませぬ。日本の船を能くも是程迄持て來たと思ふ程であります。是は内地あたりから補給して、さうしてテンマ其の他有らゆるものを利用して物資の輸送、或は軍需の輸送をやつて居ります。其の船に我々は便乗するのであります。到底船には乗れないと言ふので、又飛行機に乗りまして、是は海軍の重爆機の改良されましたもので……重爆機を使ひこなしてもう古くなつたと云ふので輸送機に直したのに乗せられたのであります。ちよつと氣味悪く思ひましたが、矢張りロックヒードの大きな型であります。漢口に参りますと云ふと此處で初めて激戦の跡を見たのであります。南京が落ちまして更に漢口に來る迄約1年あつたので、蔣介石も十分に逃げる用意を致しまして、殊に日本の租界は文字通りの全滅と申して宜いやうに破壊されて居りましたが、其の他のものは割合に破壊されて居りませぬが、機械器具類、所謂工業用具類の生産工場と云ふものは全部破壊して居ります。住宅では大きな呉服屋とか、或はデパートと云ふやうなものは財物を一物も残さず持て行てしまつて居ります。能く話に自動車一つもなくなつたと云ふことを聞きますがどうしたかと云ふと田舎に持て行て莫産みたやうなものを被せてそれに泥を塗てしまつたり又は自動車其自體に泥を塗てしまつて居る。又人力車などは100里も200里も引張て逃げたと云ふやうな話であります。住民の多くは山の麓の岩窟みたやうな所に所謂穴居生活をして避難して居りまして、今それらが毎日々々1,000人、2,000人位づゝ歸て参て居ります。宿屋の如きは外國家屋、或は飯店を改造しまして、さうして家を直してペンキを塗るとか、俄か作り板を張て、さうして日本人が住居するに適當するやうにして居ります。漢口から大冶に参り再

び漢口に船で引返しまして上海に参たのであります。上海は皆さん新聞で御承知の通り閩北を中心にしまして戦鬪の跡が、是は今迄のやうに物を持って逃げたとか、或は日本が之をどうしたと云ふでなく、全く其の儘戰場化したと云ふ形を残して居ります。閩北の有名なトーチカの如きもドイツの顧問が作らしたのではないかと思ふ程鞏固に而も完全に出来て居ります。併し土囊の如きものは砂土の用意がなくして、麥の粉或はセメントなどのあり合せのもので土囊にして居る。それから住宅の下を掘て塹壕を築いて居ると云ふ風に有らゆる方面の防備をやつて居りました。斯様な頑強な防禦陣を僅か10名か15名の部隊によつて攻撃占領したのですから皇軍の力は神業としか思はれませぬ。樹てられたさゝやかな墓標に頭を下げると同時に眼がしらの熱くなるのを覺えました。ガーデン・ブリツヂを渡りますと、是は御承知の通りイギリスの共同租界の一部がありまして、此處では非常に支那人が雑沓して居ります。ガーデン・ブリツヂの通行には我陸海軍の兵士が一々支那人の身體検査をやつて居ります。我々は自由であります。支那人は皆やられて居ると云ふことは矢張り敗れしものゝ悲しさである我國民たるもの大いに優越感を感じると同時に祖國の爲めに護國の鬼と化した英靈に感謝の念を強くしました。船は食糧品其の他のものを検査しまして出入さして居ります。上流には日本の船が控へまして一船残らず停船を命じて檢べて居ります。斯の如くして、此の上海は私は20年前にヨーロッパに参ります時に上海を見た時には外國であり。而も文明國の外國の土地を拜借して見物さして貰て歩くやうな感じがしたのであります。同じ上海に参りまして今度は如何にも我が日本の土地を歩いて居ると云ふ感じがしました。と言ひますのは婦人の如きも和服の儘活歩して居りますし子供等は公園に集て遊んで居るし或は外國の大きな建物が日本人の商店に變て居ると云ふやうなことで非常に愉快を感じました。此地の視察を終ると直ちに飛行機で東京へ歸たのであります。

其の旅の間に先づ本溪湖を見たのであります。是は生産擴充の關係で見たのであります。唯御話して差支ないと思ひますが、宮の原と云ふ所に大きな120萬坪ばかりの土地を取りまして工場の擴張計畫をやつて居ります。本溪湖と云ふ所は皆さんも御承知の通り狭い工場の見本であつたのであります。私は本溪湖の擴張と云ても何處に擴張するのかと思つた位であります。非常に景色の好い川があり、山があつて、工場の敷地も充分であると云ふ所

第 1 圖



を買収しまして此處に生産の準備をして居ります。是は宮の原製鋼所の前の所に、本溪湖から 20 km 位の所に炭坑のシャフトを各坑の石炭を此シャフトに集めまして宮の原工場に配給するのであります。現在生産 100 萬 t ばかりの石炭が近く 170 萬 t ばかりのものになります。其の外田師付と云ふ所で 20 萬 t ばかりの生産をやりますから合計 190 萬 t ばかりの石炭を掘らうと云ふのであります。それから鐵の方は貧鑛が 100 億 t 富鑛が 500 萬 t と云ふ鑛量になって居るさうであります。之を掘りまして 600 t 熔鑛爐 4 本を賄て行こうと云ふのであります。斯う云ふ風な計畫で工事を進めて居ります。それから鞍山の昭和製鋼の方に参りましたのですが、昭和製鋼の方は矢張り熔鑛爐は實に偉大なもので、昔中村總裁が 100 萬 t の計畫を樹てまして都市計畫や工場敷地もそれに適當した計畫を立てたのであります。富鑛と思つた鑛石が貧鑛であつたため坐折したのでありまして、其の儘廢棄のやうな形になって居りましたのを、貧鑛處理法の成功や御承知の昭和製鋼の建設に依りまして復活したのであります。それが今は製鉄年間 100 萬 t を突破しまして、能力は 160 萬 t の設備が出来たのであります。300 t が 1 本 400 t が 1 本、500 t が 1 本それから 600 t が 1 本、700 t が 4 本、實に偉大な工場になったのであります。昭和製鋼所創立當時に初めて平爐が出来たのであります。是は私が昭和製鋼に奉職して居りました當時に先づ八幡の 60 t 平爐に魁けて 100 t 平爐を計畫しまして、愈々我國にも 100 t 平爐が出来ると云ふことで大いに意氣込んだのであります。現在はそれも昔の歴史でありまして 160 t の平爐を何なく動かして居ります製鋼法は何れも鑛石法であります。それに付きまして生産擴充の關係上増産になるのであります。其の増産の様子は御話しても差支ないのだと思ひますけれども、先づ遠慮しまして申し上げます、唯我國の屑鐵の不足からして我々役所の方でも轉爐を成るだけ獎勵しようと云て居るのですが、日本鋼管でトーマスを作て國の爲には少からず利益になって居るのであります。昭和製鋼でも其の計畫があります。25 t の轉爐を建設して平爐と合併作業を仕ようと

計畫して居ります。是は小日山現社長が俄に變更されたので、生産の方にはちよつと遅れる様であります。計畫された轉爐は日本鋼管と違ひまして昔八幡でやって居たベセマーの様であります。昭和の銑鐵は特に珪素の多いものですから、酸性法で製鋼致しまして、それを再び平爐に装入致しまして所謂合併製鋼を仕様うと言ふのです。25 t 轉爐 3 本、それから 150 t 平爐が 4 本、是だけを合しましてやて行かうと云ふのであります。其の他は大した變りはない様であります。それから鑛石は非常に數量が要るので今の 160 萬 t の熔鑛爐に對する材料は充分見込が附いて居る様であります。將來目論まれて居る 700 t 爐 5 基及 700 t 爐 6 基の計畫に對しましては鑛石の供給が問題であります。此の鑛石は滿洲國全體としては考へられるかも知れませんが、昭和製鋼だけでは一寸解決が困難であると存じます。此の顛末は又後で御話したいと思ひます。それで此の鋼を造ります爲に鑛石の増産と云ふことはどうしても今の東鞍山とか、其の他昭和製鋼自體の鑛山があるのがあります。これ等を今一步進んで手廣く鑛石を得る爲に鐵道建設の計畫がある様です。それは御承知の鴨綠江の上流の太票子鑛山を目標の東邊道に鐵道を連絡させて東邊道、弓張嶺、太孤山等の鑛石輸送網を張らうとして居る様です。

本溪湖の鑛石の事も今少し述べたいのですが時間がありませんので略しまして、それから北京に参りました。北京の石景山に参たのです。石景山は丁度北京から 4 里ばかりでありまして、北京と包頭を繋ぐ京包線と云ふ鐵道があります。それに石景山と云ふ所があります。此の石景山は例の有名な西太后が別荘を作られた玉泉山とか萬壽山とかありますが、其の直ぐ近くであります。丁度石景山から北の方に見えて居るのですが、石景山と云ふ山があるので。其の山は高さが 120 m ばかりの山でありまして、我々から見ると公園の築山と云ふやうな感じがするやうな山であります。其處に 250 t の熔鑛爐が 1 本建て居る。是は例の永定河の水を使ってやて居りますが、是は濁た水であります上に硬水でありますからそれを沈澱させて、軟化しまして使て居るのです。此の熔鑛爐はアメリカのペリンマーシャルのコールハースと云ふ人が設計したもので 250 t に設計して居りますが、工場を一見しまして非常に支那人を馬鹿にして工業智識のないものに工場を建てさしたと云ふ感じが致しました。例へば建築は製鉄工場の建物としては過重の鋼材を使て居る。ボイラーの如きもパーチカルの非常に不完全な古いものを使はして居る。熔鑛爐の能力

は 250t となつて居りますが、私の考へます所では 150t 位しか出ないだらうと思ひます。現場でも 150t と云て居りました。それで此の工場を作るのに随分金を儲けたことだらうと思ひます。是は民國 8 年から始まつたのでありまして、それで民國 17 年頃に此の工場が更りまして、龍烟鐵鑛と連絡して一つの會社になつて居た。25 年に例の北支に冀東政府が出来まして、日本と北支との連絡と云ふので、此の會社の増産を計畫したのでありますが、斯う云ふ歴史の所でありまして、その他見るべきものはありませぬ。唯之を如何にするかと云ふ問題で當局では此處に別な熔鑛爐を作て、さうして之を増産して行きたいと云ふ希望がある様ですが、是は 15 箇年計畫で北支に 50 萬t 程度の製鋼一貫工場を作ると云ふ趣意と抵触します。それを此處も殖やすと云ふ事は色々な意味に於て餘り賛成出来ないであります。矢張り塘沽の近くか天津の近くに別に銑鋼一貫工場を作ると云ふことになる可きと信じます。然らば此の石景山を如何にするかと云ふ問題になるのでありますが、是は私の卑見であります。現在の 150t か 200t の熔鑛爐を以てさうして、是から出る銑鐵を原料とし諸機械を作る工場となし一部市場用鑄物銑としたらどうか、即ち此の熔鑛爐は機械工場の自家用として考へたらどうかと思ひます。此點に關しては軍當局の方も私と同じ意見を持て居られた方もあります。従ひまして今日の情勢では石景山の熔鑛爐の増加はどうかと思ひます。此の經營は日鐵系の方が行かれまして盛んに今經營して居られます。此の鑛石は御承知の龍烟の鐵鑛石を以て行て居ります。此の近邊の將軍岑と云ふ所に何億噸と云ふ石灰が出ます。それから 60km 位の範圍の所にマンガンが出るさうですから、是は原料には差支ないのでありますが、唯コークスに關しては大分惱んで居る様であります。此處で使用して居るコークスには灰が甚だ多いのであります。此コークスはどうか云ふ風にして使て居るかと思ひますと石家莊のものと六河溝のものを購入しそれから自分の所では本溪湖式の野燒爐で以て造て居ります。此の生産は御話して差支ないと思ひますが、今の程度で銑鐵噸當り 55 圓位で出来るさうでありますから生産には差支ないのであります。それで此の市場はと云ふと北支に於ける製鋼一貫の計畫から見ましても、實際 70% 位が北支の市場であり残り、30% 位が上海其の他に出す事になります。さうしますと今の 50 萬t の中 35 萬t 位が北支に消化されるのぢやないか。滿洲事變當時も 40 萬t 位でしたから、初めは矢張りさう云ふやうな數量で來

るのぢやないかと思ひます。

龍烟鐵鑛に參りましたが、龍烟鐵鑛は……申し落しましたが、北支の鐵道は材料が殆ど残て居りました。一部破壊されて居りますが、中支のやうに酷くないのであります。それで此のレールを利用しまして、殆ど八達嶺から所謂包頭に行く京包線其の他が開通しまして、唯枕木が 600 萬本とか要るのでありますが、是は沿線にある水楊を其の途中の農民が集て伐りましてそれを供給して居ります。此の枕木は 2 年位しか持つまいと云ふので随分惱んで居たらしいのでありますが、今の場合仕方がないと云ふことで、レールは殆ど此水楊で敷設したのであります。京包線の布設に就て龍烟の鑛石運搬上最も難關とされましたのは八達嶺の嶮であります。實に我軍隊の越した八達嶺の嶮峯は全く酷いものであります。汽罐車は米國で作たものだ相ですが 2 輛くつ附いた大きな特殊の機關車を使用して居りますがそれが 2 臺残て居りましたので、それを使て運轉して居りました。運行には少しも差支ないさうであります。運輸能力につきましては後で御話します。それで宣化と云ふ所から 6km ばかり……是も矢張り張家口のやうに埃の多い所ではありますが、其の平坦な埃の多い道で 6km ばかりの所に龍烟の鐵鑛山があるのであります。龍烟は龍關と云ふ所と烟筒山と云ふ山がありますが、其の兩方の名稱を取て龍烟鑛山と申すのでありますが、此地方は鑛山が澤山續いて居ります。それで此の邊は、北支から南支、中支と引續いてアメリカのアンダーソンと云ふ人が非常に廣く調べたらしいのです。併し鑛量の點につきましては露頭位を見て歩いて、さうして急速に數量を計算したものだと思ひますが、此の地方も矢張りアンダーソンと云ふ人が調べたのだそうです。是で烟筒山が 1,200 萬t、辛窑と云ふ所が 1,700 萬t、三叉溝が 300 萬t、龐家堡と云ふ所が 5,700 萬t、合計 9,000 萬t、約 1 億t の鑛量です。鑛質は 50% から 55% 位で、珪酸が粒になりまして、其周りに鐵が包んだ様な細粒が固たものです。従て珪酸が多いので 20% 位あります。此鑛石は燒くと細粒がぼろぼろになるのでないかと思て聞いて見ましたが、そんなことはないと思て居りましたが、燒けばぼろぼろになるんぢやないかと思はれる様な眞赤な石であります。此の石は珪質の砂岩と千枚岩の間に挟まれて居る水成岩であると云ふことは我々素人にも考へられる鑛床であります。鑛床の幅が 8 尺位ありまして、其の中間に 2 尺ばかりの挟みが入て居ります。ですから兩方で 10~8 尺の厚みを有た鑛床であります。鑛

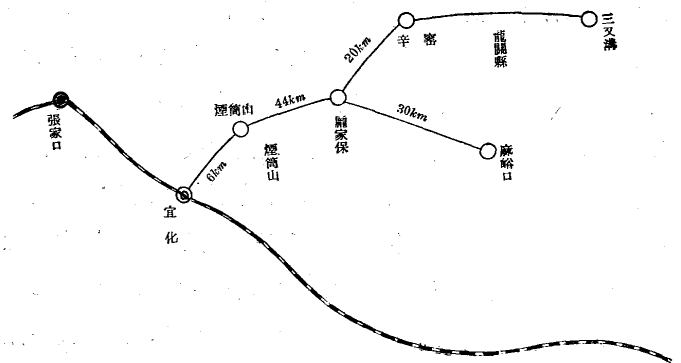
床は殆ど水平でありまして、層の端が山の肌に出て居るので、皆露天掘で掘て居りますが、それも段々掘り盡まして近く坑道掘を始める予定であります。坑道掘をしまして、其の採掘量は現在の情勢から見てどの位出ると云ふと1日に1,500tの予定で居るさであります。現在實際に1,500t掘て居ります。それから鐵道の軌條の如きも其のやつを直し、又其の他の設備も段々直して居りました。採掘は一番初に南山と云ふ山がありまして……南山、東山、北山とありますが、南山は殆ど掘り盡してしまつて、今東山に掛かつて居る。近く北山と云ふ山に鐵索を繋ぎまして此山の増産を圖ると云ふ事になって居ります。現在日本の生産予定は一年間20萬tとなつて居りますが50萬tの採掘は現在の儘で可能である相です。鑛量に至りましては計算上9,000萬tと云ひますが、是は私は倍に數へても宜いぢやないかと思つて居ります。唯鑛床が今申上げましたやうに8~10尺の鑛床で果して採掘か予定數量出るかどうかと云ふことを疑問に思つて居りますが、それは全然御心配はない。充分研究の結果現在の東山、南山、北山の山だけで50萬tは可能であると當局は確信して居ります。其の他今申しました麗家堡と云ふ方は非常に品質も良いし量も多い。山は處々に散在して居りますけれども、距離は今の麗家堡を中心にして50km以内の所にありますから全山の連絡も容易であり。従て日本が若しも欲するならば此の鑛石は幾らでも供給出来る。斯う云ふやうなことであります。次に採掘の費用はどんなものかと言ひますと運鑛用のレールも今75lbsレールを使って居りますし。貨車は30t貨車10輛を1列車としまして3列車動かす、1日に午前3回、午後3回、6回往復やると云ふやうな程度で現在1,500t掘て居りますが、此の鑛石輸送問題であります。滿鐵の北支鐵道事務局即今度改正になりました、北支鐵道會社では年に370萬tの輸送能力がある。其の中で車用品30萬t雜穀が70萬t合計100萬tで残り270萬t近くの鐵鑛輸送力があるのだから、充分大同の石炭と龍烟の鐵を運んでやれる。唯問題になりますのは塘沽の築港の船の問題であります。是は南洋あたりから來る鑛石でも船と云ふものは問題になるのであります。此處も船の積出しの點で制限されて居ります。現在に於ける鑛石適當の生産費はどの位であるかと云ふと苦力が1圓70錢ばかり、それから坑内運搬所謂鑛山の中を運搬する費用が40錢、事務費が1圓40錢、山元から宣化、それから塘沽迄の運搬が8圓50錢。日本迄の海上の輸送を8圓と豫

定しますと20圓ばかりで日本に鑛石が來ることになります。それから鐵道の能力を申上げますと、先程申上げます

やうに輸送能力が370萬t、波止場の能力が170萬t、差引200萬tと云ふ鐵道輸送力が餘る譯であります。それから今度は今の170萬t波止場の能力があるものに對しまして、ライターが120萬tのライターださうですから差引50萬tの船輸送の不足となります、ですから鐵道能力から見ると船輸送は250萬tからの不足となる状態であります。

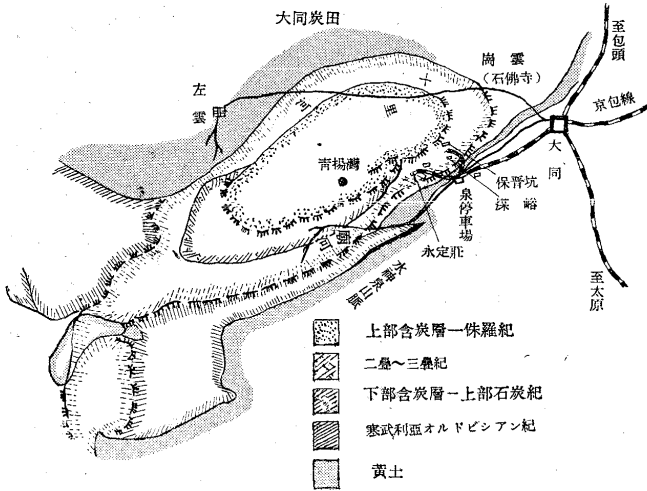
それから大同に参りましたのですが、大同は私の専門外であります。視察致しまして非常に驚きましたのでまだ皆さん御承知ない方は知て置く必要があると思ひまして、特に書いて置きました。(圖示)大同の御話を致しま

第2圖



す前に龍烟地方の略圖(第2圖)に就て一寸説明申上げます。是が宣化であります。6kmばかりの所に烟筒山があります。此の烟筒山と龍關、此の地方を龍烟鐵鑛と申すのであります。私の見ましたのは烟筒山の鑛山であります。麗家堡と云ふ所が中心地であり辛密、三叉溝、麻峪口等と云ふ山が其周圍にあります。それで此處は後で結論の時に申しますが、次に大同炭坑に就て申上げます。大同の石炭は事變後俄に我が國に有名になりました。今では皆さん御承知と思ひますが、大同石炭は(第3圖参照)大同の街から7里半の所にあります。是が大同ですが、京包線から分れて口泉と云ふ驛があります。此の驛から此處迄は此の鑛山鐵道が行て居ります。それで此の鐵道が幸にして相當に残りましたので、是は其の儘使つて居りまして、完全なレールであります。さつき申しました石佛寺と云ふのは丁度此の北の方にあります。殆ど同じ距離で、大同から石佛寺迄40kmばかり、こつちの大同から口泉が50kmばかり、全體長く見えて居りますが、是だけが炭山であります。此の炭山は延長が180km幅が17km此の全體の炭量

第 3 圖



第 1 表の 2 舊保晋礦務局公司出炭表

保 晋 坑	
14 年	23,709.0
15 "	31,790.0
16 "	50,890.0
17 "	62,258.0
18 "	79,721.0
19 "	131,061.0
20 "	108,898.0
21 年	120,811.0
22 "	74,096.0
23 "	121,013.0
24 "	130,000.0
25 "	140,000.0
26 "	160,872.0
計	1,235,119.0

萬tと云ふ最高記録を出して居ります。第1表の2を見ますと舊保晋礦では民國15年に3萬t 18年に約8萬t 20年に10萬t 26年に16萬t、合計123萬t許りであり舊晋北礦(第1表の1)では民國19年に11萬t、23年に25萬t、26年に36萬tで合計190萬t程採掘して居ります。今三ヶ所の坑區の民國で26年の採掘を見ますと舊晋北礦務局の永定莊が21萬t、煤峪口が約15萬tで舊保晋礦務局の分が保晋坑で民國26年に16萬tの採掘となつて居ります。掘出してから合計は保晋坑が100萬t、煤峪口が70萬t、永定莊が300萬tばかり掘た譯であります。

それから昭和12年9月に日本で戦さで取りましてから直ぐ引繼いだのでありますが、坑夫など半分以上残つて居た

第 2 表 大同炭礦接收以來の月別出炭表 (第 2 表)

年 月	永定莊	煤峪口	保晋坑	計
昭和12, 10	6,598.30	—	3,780.00	10,378.30
" 11	9,219.20	6,495.52	7,154.00	22,868.72
" 12	15,870.90	10,313.00	11,022.00	37,005.90
12年度小計	31,688.00	16,308.52	21,956.00	70,452.92
13, 1	16,295.80	11,566.00	11,827.00	39,688.80
" 2	11,612.60	10,452.00	9,643.00	31,707.60
" 3	24,292.00	19,935.00	16,461.00	60,688.00
" 4	30,149.90	22,073.00	20,234.00	72,456.90
" 5	32,768.10	24,325.00	20,917.00	78,010.10
昭和13, 6	30,228.80	20,621.00	18,946.00	69,795.80
" 7	29,581.30	18,261.00	21,478.00	69,320.30
" 8	27,668.30	16,736.00	19,439.00	63,813.30
" 9	23,071.00	16,362.00	20,187.00	59,620.00
" 10	24,862.00	20,718.00	24,085.00	69,665.00
" 11	36,023.00	26,294.00	27,423.00	89,740.00
" 12	44,725.00	28,269.00	29,067.00	102,061.00
13年度小計	331,247.80	235,612.00	239,707.00	806,566.80
14, 1	41,113.00	29,712.00	30,546.00	101,371.00

其の坑夫を捕へて、さうして其の儘掘出したのが第2表であります。永定莊が6,000t、それから煤峪口が6,000t 今二つでやつて居ります、段々殖えて参りまして昭和13年の12月が40,000t程になります。それから煤峪口が30,000t、昭和14年1月に40,000t出して居ります。此の状態で今段々と設備を進めて居るのでありますが、此の鑛床の面白いのは今採掘して居る方面が一番上に侏羅紀と云ふ層がありまして、侏羅紀の含炭層の下に二疊、三疊紀層があり其下に石炭紀層の石炭がある。此の2層が此の近邊に當て居る。南西部になりますと侏羅紀のやつがなく

が200億tと云て居ります。さうしますと撫順石炭なんと云ふものはもう子供のやうになつてしまふ譯であります。それで是は日本の商工省の臨時産業局の門倉三熊と云ふ人が支那人に變装して1箇月に互て此の炭山を調べた。それで此の事變になると同時に大同に著目出來たのは門倉氏の功績であると云ふので、此の炭山では門倉氏を捜し當てまして、今は非常に老人になられて、半身不隨になられて居るのを引張て來て顧問に擧げて居ると云ふ話であります。此の人の調査の要領を基礎にしまして計畫を樹てたのでございりますが、それは大正7年ださうであります。随分前の話であります。それで炭山は今3箇所あるのです。永定莊と云ふのと、煤峪口、保晋坑、此の3箇所が昔から支那人が掘て居た坑區なんであります。それで此の掘た坑區は何時頃から始まつたかと云ふと、随分それがごたごたしてやつて見たり。中止して見たりして居るのですが、民國17年に軍人煤廠と云ふ會社を作りまして、それから始まつた

第 1 表の 1 舊晋北礦務局出炭表 (單位 t)

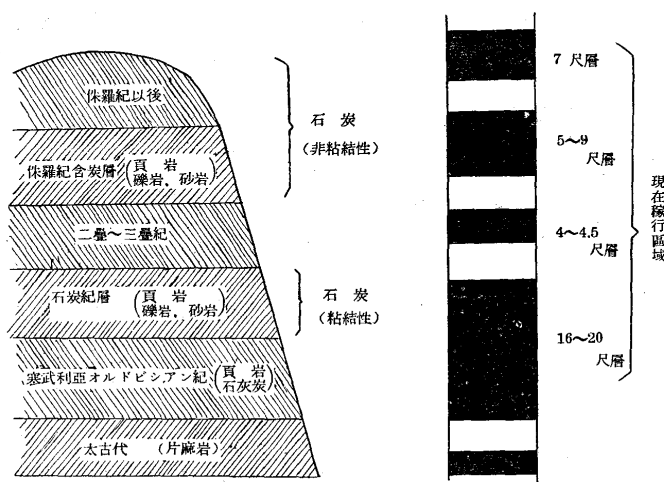
	永定莊	煤峪口	計
18	5,708.85	—	5,708.85
19	87,877.80	21,204.00	109,081.80
20	65,851.80	42,346.00	108,197.80
21	163,342.80	79,455.00	242,797.80
22	78,107.00	45,431.00	123,538.00
23	163,369.00	91,272.00	254,641.00
24	183,487.00	118,476.00	301,963.00
25	214,766.00	136,903.00	401,669.00
26	213,952.00	148,599.52	362,551.52
計	1,226,444.25	683,686.52	1,910,130.77

のであります。其の翌年の18年に永定莊に4.2mのシャフトを2本作りまして、それが今残つて居ります。19年に煤峪口の方に矢張りシャフトを二つ作つて掘出した。其の間直奉戦とか色々な戦争がりましたが、民國25年には26

て、石炭紀層の石炭ばかりになって居る。此の一番上の此の方は粘結炭はないが、こっちは 18 位の粘結がある。煉鐵爐コークス炭用には 16 ばかりあれば宜いと云ふのでありますから、粘結力が 18 と云ひますから非常に多い譯であります。それで此の石炭を此の邊即北東部だけ掘りまして、是だけで 65 億ある。ですから數量の如きは問題でないのです、毎年 3,000 萬 t 掘て 200 年で 60 億 t ですから、殆どもう數量は考へないで宜い。而も西南部の方は

第 4 圖

大同炭田地層之圖



掘らないで、永定莊方面だけで宜い、此の邊に青楊灣と云ふ所がありますが、此處の所で以てボーリングして見た所が 400~450m 位の間に 19m の炭層があったと云ふのであります。それで此處の炭層はどんなかと申しますと第 4 圖に示す様に最大 16 尺から 20 尺、是から下に今の 19m と云ふやつがあるのです、尺にしますと 50 何尺と云ふこととなりますね……。それで今掘て居りますのは 7 尺層邊を掘て居ります。是から段々下部に進み遂に 20 尺層に行きたいのだけども、是は經費其の他の關係で今急には出来ない。青楊灣では 60 位の傾斜を付けて掘て居ります。鑿岩機なんかと云ふものは殆ど要らない位であります。それで大體此の炭山を經營するのは撫順の石炭を掘るのから見て 1/3 で宜いと云ふ話であります。ですから撫順などでは採坑掘設備費が 1 t 當り 20 圓要るさうであります、大同では 1 圓當り 6 圓あつたら採掘設備が出来ると云ふことあります。それから此の石炭はガスが出ませぬし、それから地盤が固い、従て抗木は殆ど要らない、それから灰がありませぬし、熱量は高い。粘結炭もあるし、不粘結炭もある。工業炭にもなるし。コークス用にも出来る。斯う云ふこと

で採掘も非常に易い。所に依ると云ふと平壤の無煙炭あたりから見ますと 1/10 位の費用で掘れる。斯う云ふことを言て居ります。現在の經營は撫順炭礦の人が主であります私は次長の西尾と云ふ人に説明を願たのですが、此の人は今迄撫順炭を随分得意がって居たのですが、大同を見たら嫌やになってしまったと云て居りましたが、是は出張員でありますから決して我田引水ぢやありませぬ。實際感じられた所であると私も其の積りで聞き取て参りました。費用は 1,000 萬 t 採掘するものと假定しまして、採掘費は山元で 6 分の利益を加へまして 3 圓 50 錢で宜い。斯う云ふ話であります。それから港の積み卸しが 1 圓 50 錢、山元から塘沽の海岸迄の運賃が 4 圓 80 錢、それから内地迄の海上が 7 圓 70 錢~8 圓に見まして、是が合計 21 圓 50 錢で内地迄此の石炭が送れるのであります。それで只今申しましたが、今年の初めは 40,000 t であります、今年には設備が急に殖えますので 150 萬 t 出るようになって居る。後で又總體的に御話を致しますが 15 年には 350 萬 t に爲す豫定ださうであります。第 3 表に石炭の性質を参考にして見ましたが、(表示)

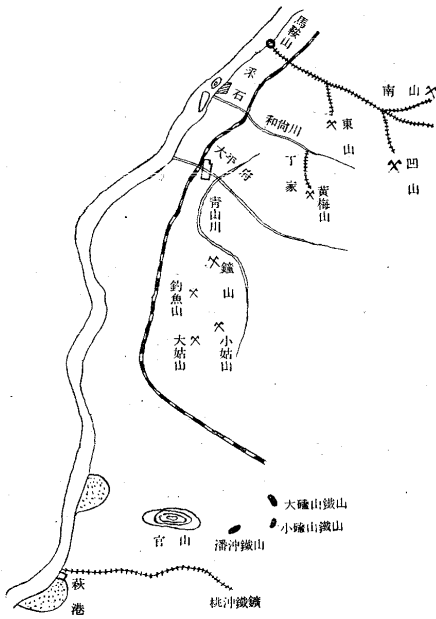
第 3 表 大同炭性分

炭 別	水分	灰分	揮發分	固定炭素	硫黃	カリー	骸炭性質
永定莊一層	3.7	4.9	27.4	64.0	0.76	7,396	非-弱
〃 二層	3.2	5.3	26.9	64.6	0.69	7,406	弱-粘結
煤峪口坑	3.4	5.0	30.3	61.3	0.52	7,343	弱-粘結
保 晋 坑	3.8	2.1	34.6	59.5	0.33	7,714	弱-粘結
石炭紀石炭	4.3	9.6	32.1	54.0	1.61	6,804	粘 結

灰分が 4, 5, 2, 9 と云ふのですから我々が外國の本で見ると數よりも少い位の數量であります。それから固定炭素が 64, 61, 59 熱容量が 7,700 cal と云ふ事になって居ります。永定莊の第一層と云ふのは粘結はないが、石炭紀は粘結が高い是が前に申した粘結性が 18 位であります。未だに世間では大同炭の粘結性を疑て居る人がある様ですが此點に關しましては大同當局が確信を以て云ふ事ですから間違ひはありません。粘結性のある大同炭が内地に供給せらるゝ様になれば我製鐵用コークスに對する不安は解消される譯けであり。今回の聖戰の意義も明かとなる譯けです。大同の視察を終てから一度北京に戻り飛行機で南京に参りそれから華中鑛業に参たのであります、華中鑛業株式會社は日鐵系の方が主になりまして經營して居られることは先刻御承知の通りであります、此所屬鑛山は今迄非常に問題にされて居た鐵山なんであり、馬鞍山と云ふ所に事務所がありまして、東山、凹山、南山、と云ふとそれ

から和尚川の附近にある黃梅山などと云ふ山が集て居り

第 5 圖



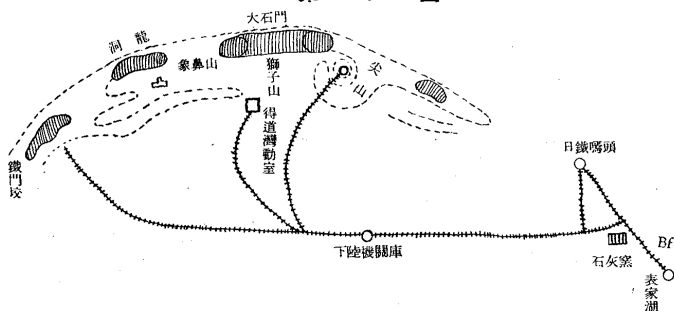
ます。第5圖に就て御覽下されば明かとなります。それから南方青山川に下りますと所謂太平鑛山の範圍に入りまして鐘山、釣魚山、大姑山、小姑山と云ふ様な山が集て居ります。華中鑛業で今や

居るのは此の鐘山と黃梅山であります。所謂馬鞍山と云ふ所は南京から蕪湖に參ります京蕪線の中間の采石と云ふ驛の直ぐ手前の海岸に向た所に事務所がありますのですが、何にしてもまだ調査も充分でなし。其の他の設備も不完全でありますので、従業員は随分苦勞しながら種々の計畫に努力して居りますが、事業に着手致しましてから1年足らずださうであります、即ち13年の6月頃初めて入山したさうであります、此の頃はまだ此邊に匪賊が居りまして丁度陸軍の14師團と7師團が交替する時だった相です。それで當時は一大隊の兵隊が居りましたが現在は二箇大隊になりまして此地方を警備して居ります。私が行た時に南京から匪賊が2人來まして、どっちも捕まりました。事變前此地方に非常な強力な匪賊の集團があつたさうです。其の連中は今は我軍に歸順して我軍の爲めに大いに活動して居ります。斯様な警備團が前に申した國民軍の秘蹟を捕へたのです。南京から此の山の兵力を調べに來たのだ相ですがそれ以外は口を緘して何事も言はないので、今2~3日置いて始末するのだと云て居りました。未だに斯様な状態でありますので一刻も警備の手を弛められない相です。此處のレールは13年の9月末に出來上たさうですが10月4日に開通して、馬鞍山の河岸に波止場があります。碼頭と申しまして一種の浮淺橋がありますが、其の浮淺橋から積み卸しをやって居りますが、此處の鐵道は貨車一臺の運搬能力が4t 500から5t 500位の

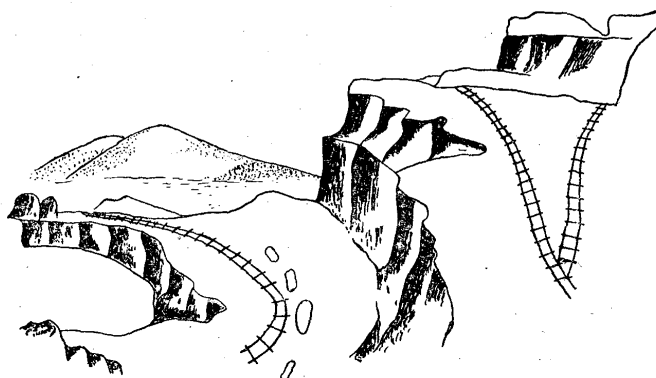
小さいものでありまして、誠に貧弱な汽車でありますので運送には可なり苦勞なんであります。一番初め陸軍の方が出來上る當時言はれました一日の輸送能力は800t位だらうと云ふ御話だった相ですが、私參りました時にはもう1,100t位の能力になつて居た。1日1,100tですから年に35~60萬tから40萬tは出せると云ふことであります。斯くして使用して居る貨車は八幡の日鐵で新造したもののや、古いのを持て行たり色々な工面をして居る次第であります。現在の年間輸送能力の30萬t、40萬tと云ふのを考へますと、私後で申し上げたいと思ふのですが、今少し將來を考慮して規模を大きくやる可きであると考えます。鑛量の如きは500萬tとか1,000萬tとか云て居りましたが近く滿鐵から技師が參りまして南山の一部をボーリングを行ひ鑛量の調査を行ふ豫定であるからさうしますと非常に正確なる數字が出る。斯う云ふことを云て居りましたが私は調査の前に鑛量は1億以上ある事を兒玉が豫言して置くからと云て參た事です。鑛床は石灰岩に接觸したもので鑛量は私は1億tは降らないだらうと思て居ります。此處はまだ生産費がはつきり分りませぬですが、矢張り工賃は55錢から70錢或は70錢から80錢位の状態でやつて居ります。それから掘るのには殆ど請負でありまして、苦力頭が居りまして、それを督勵しながら請負た數量を掘て居る。今申しましたやうにレールが45lbのレールで、さうして4t 1/2から5t 1/2位の貨車でよちよち運んでゐるのですから、今の日支事變の結果我日本が支那に鑛山を開發せんとする設備としては全く問題にならない程貧弱なものであります。

それから大冶の鐵山に參たのであります。大冶の鐵山は最早御話する必要もない位に日本と密接な關係がありまして、今日迄1,500萬t位の量を供給して居るのであります。是は申上げる迄もないと思ひますが、採掘計畫は年間150萬t位の計畫であるさうですが、此處の鐵道は殆ど破壊されました。それからレールなど接ぎ目の間を切て終たのですから、其のレールは一生使へなくなつてしまつた。切斷の間に合なかつた分は後で使ふ積りでもあつたのか皆揚子江の中にぶち込んであつた。それが減水の爲に其處に埋めてあると云ふことが分りまして、それを引上げて日本の工兵大隊が熱心に工事を進めて1箇年足らずで立派な鐵道が布設されまして昔と同じやうな状態になつて居ります。此處に石灰窑と云ふ所があります。第6圖を御覽下されば判りますが石灰窑は漢口から40~50哩も下た所でありま

第 6 圖



第 7 圖

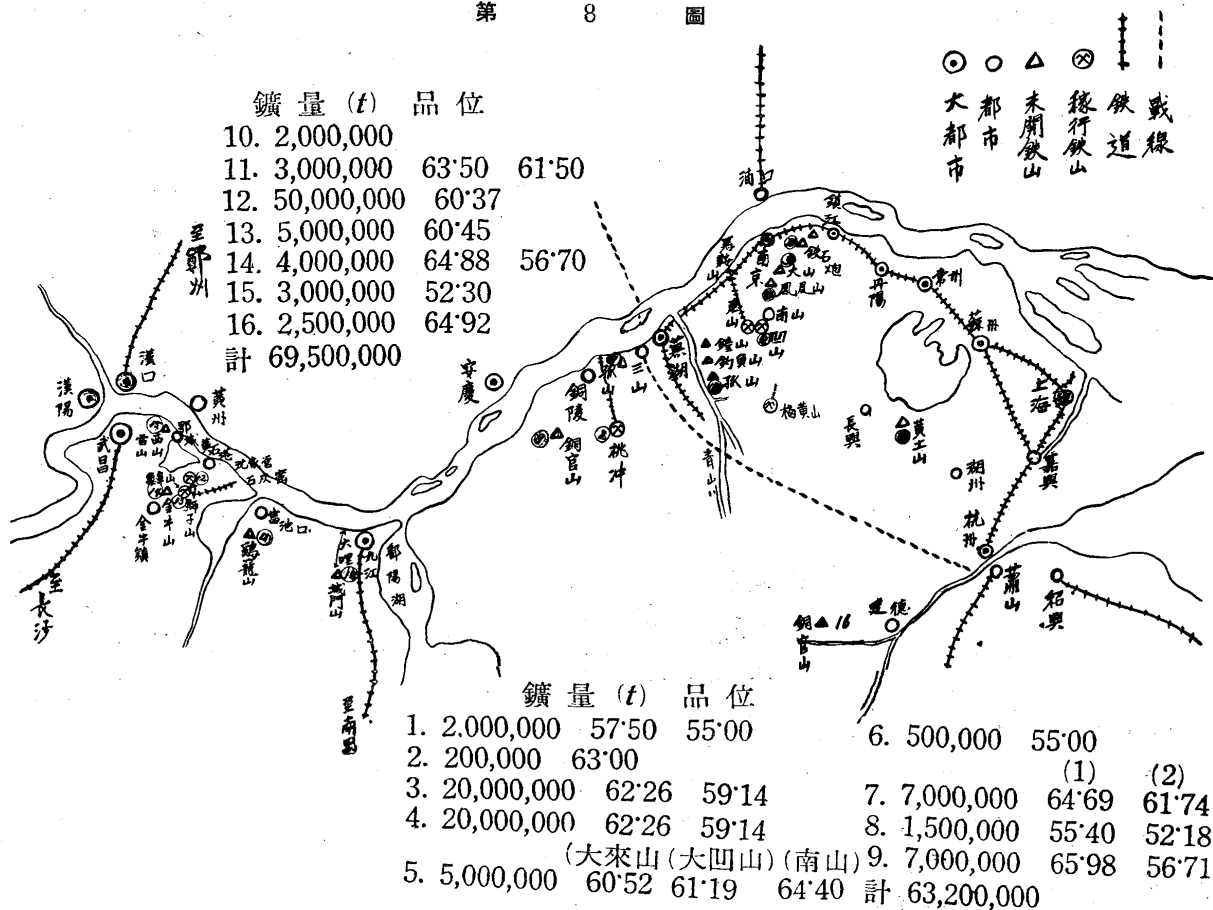


すが、其の海岸から鐵道が出て居ります。昔は此の鐵道が2本ありまして、こっちの尖山と獅子山と二つの會社になつて居たのであります。是等の鑛石を運搬するのに一つ鐵道がありまして、其の鐵道が又一つの會社であつたのです。此處のレールは35kgのレールでありまして、海から引上げたのと日本内地から補給しまして出來ましたのですが、大冶の方でやつて居たやつと、尖山の方でやつて居た線とごっちゃに成て居たのですが、今は兩者を合併して一線となりました。此處の鐵山の狀態は華中の狀態と同じに考へて宜いと思ひます。第7圖を見て頂きたいのですが40m位の階段式に約三段に切り開いて居りまして華中の鑛山と全く同じ方法で探掘して居ります。各階段で掘た鑛石を手

押車又はインクラインを以て下に卸して居ります。此の掘り方は要するに壁の様に尖立た壁の下部を削て上からはたんと崩さうと云ふ譯なのですが是では非常に時間を潰していけないので、是はよろしく段の數を多くして各階段の探掘面を増すべきであると考えます。大冶の如きも私は華中の場合と同じく數量に於ては相當に出るものと信じます。私の見た所で、大體目測しまして計算しますと5,000萬tばかりになつたのであります。兎に角私は鑛量的に見て5,000萬t以上は必ずあるものと確信して居ります。

日鐵と華中とは長江沿岸の鐵鑛石に着眼して正に日本の

第 8 圖



新勢力で掘り出さうと勢込んで居る譯けなのですが今此の近邊の鑛山を數へて見ますと云ふと……第8圖を御参照願ひます。此の馬鞍山を中心にした此の近邊、それから大冶を中心にした此の近邊、此の2箇所のグループを我々は考へて宜いと思ひます。それから太湖の南方に黄土山と云ふのがあります。是もアンダーソンと云ふ人が調べ其の他の人が調べたのに依りますと、黄土山の推定鑛量が200萬 t と云はれて居ります。それから南京の圍りです。其處に鐵石炮と云ふのがありますが、是が20萬 t 、品位は大體57から60近邊であります。それから大山、鳳凰山是が梅黃山で南山の一つのグループになるのであります。梅黃山と云ふ鐵山は華中鐵鑛で見込を附けて居る鐵山であります。此の梅黃山は2,000萬 t 、それから南山、凹山、今の馬鞍山のやつですね、是が500萬 t と云て居ります。私は500萬 t と云ふのは私の見た所でもまだ合てないやうに考へて居ります。是は見物人の岡目八目かも知れませんが、却て逆に當るものであります。餘り近眼的に調べ過ぎる事もどうかと思ひます。私は少くとも5,000萬 t や1億 t 位はあると思たのが500萬 t と云はれて居ります。それから青山、是が鐘山と釣魚山と姑山、此のグループが50萬 t 、是は今華中が調査に掛かつて居るので、近く是は始まるさうです。

それから桃中、是は矢張り大きな鐵山です、是が幾らかと云ふと150萬 t と云て居ります。それから銅管山が700萬 t 、此の近邊の今は是だけの數量を加へますと6,000萬 t ある譯です。是は見たゞけで支那人が科學的に、企業的に考へた事のない鐵山なんですから、ほんの上面の數量が6,000萬 t であると考へて良いと思ひます。之を倍に見れば1億2,000萬 t ある譯です。それから大冶の方は獅子山、象鼻山、尖山此の山だけを掘るといふのです。其の外鄂城と云ふ山があります。鄂城の側に雷山、西山、此處にも一つのかたまりがあります。此處の城門山が200萬 t 、此處に鷄籠山といふのがあります。是が300萬 t 、それから所謂大冶が5,000萬 t 、それから象鼻山、鐵山、其の近邊が500萬 t に400萬 t 、それから鄂城が300萬 t 、ずっと南に降て居りますが、これも銅管山と云て居りますが是が合計6,000萬 t 、是と是を加へまして既に1億5,000萬 t 近くあります。ですから是だけのやつでも日本の工業に充分貢獻するものと思ひます。

此の點を總括的に申しますと今日本で16年計畫に對しまして輸入を必要とする鑛石が約450萬 t ばかりでありま

してこれだけはどうしても外國から買はなくちやならぬことになって居る。其の450萬……まあ500萬 t の中の150萬 t に相當する量は長江沿岸から入ると云ふ計算になって居るのであります。それは事變直後の長江沿岸の情報を聞いて作た數量であります。此の時私は無論目見當なんですが、年産200~250萬 t を主張しましたのですが治安維持の關係や運搬力等を考慮して先づ150萬 t を長江沿岸からと云ふ事になったのであります。そうしますと残り300~350萬 t の數量は南洋とか、ニューカレドニアとか、フィリッピンとかから取らなくちやならぬ。是は平時の經濟情勢から見まして、外國から品物を買った場合が都合の良い時もありませうが、さう云ふ様な場合は別として、日本の絶對的鐵國策の見地から考へますと、外國からは少しも鑛石を取りたくない。若し取るにしても國內自給の方針を樹てゝから經濟情勢による便宜上の取引位にしたい。此事は世界に對するゼスチュアーにもなる事でありませう。其の意味から私は常に國內は勿論我帝國の勢力範圍から鑛石を取ると云ふことを主張して居るのであります。反對意見は國內に鑛石があるならばそれは有事の場合の資源として保存して置き出来るだけ外國資源の利用を説く人が現に澤山あるのであります。その説の誤て居る事は今度の事變で判た筈であります。而も國內資源を保存すると云ふが水力電氣の水のやうなものであれば何個の水があつてどれだけの電力を發電出来るかと云ふ事を豫め計算も出来ませんが鑛石の場合は左様は行かない。矢張り相當の探鑛とか設備を必要とするものであります。國內資源の保存を説くならば寧ろ釜石とか倶知安とか云ふ既知鑛山の増産を中止し多少の損失を覺悟して新山に着眼すべきであります。のに反て新山の着手には損失を恐れて一手も觸れ様としないのです。政府に於ても此點を充分理解の上に積極的な手段によつて、國內でも、國外でも日本の勢力範圍にある所の鑛石は鋭意開發に心がく可きであります。此意味から致しまして長江沿岸に於ける鑛石は差當りもう300萬 t も増産して合計500萬 t か600萬 t の生産を執行する位の腹がなくては駄目です。さうすればもう外國の鑛石は取らないで宜い。現在私の視察中に感じました程度の半信半疑の様なやり方では心細いと存じます。運搬とか船とかを心配して居るがそんな事は手段に過ぎませぬ。國家重大資源の開發に對し手段に過ぎぬ事柄に考へを左右されては駄目です。鑛石は生産品と違ふから場合によつては掘り盡して終ふ事があります。鑛量500萬 t あらば年100萬 t 掘ても5ヶ

年續く、それで結構です。鑛量の調査に捕はれて資源の發見を逸するの愚よりも優れて居ります一營利上の事ではなく國家重大資源の問題であります。釜石の鑛山の鑛量の如き十數年前から悲觀説を聞かされて居ながら未だに採掘を續くる許りでなく其増産すら計畫されて居るではありませんか、彼の 4,000 萬 t のブロックの發見の如き誰が豫測したるものがあるにせうか、信念と力であります。求めよ然らば與へられんであります。大同の石炭の如きも一日も速かに國內供給を有望して止みません。然るに現在の支那に對しましては開發會社あり、興亞院あり或は企畫院あり商工省あり。關する者多くして事業の遲滯勝ちなのを遺憾に存じます。今私が茲で議論する必要はないのであります。我が國の鐵其他の資源開發に對する態度を見ますと云ふと丁度行倒れの人を見て何人も氣の毒だと思ふのであります。是れに人を出して危抱する人がない。此處へお巡りさんでも來なければ手が出ない。これと同じ様です鐵の必要と云ふものは何人も知て居るが誰れも手を出す人がない。開發に身を投ぜんとする人がない。命令の出す人もなく出す所もなく只不足を案ずるで過ぎて居る。それは私は大きなことを申上げるやうだが、大同の石炭に就ても考へさせられたのであります。大同の此石炭が今國內に供給されたならば、製鐵用原料炭となり或は工業用炭となって現在の國內石炭飢饉を救ふ事が出来るのであるが船の輸送がうまく行かないので、鐵鑛と石炭を塘沽の海岸に積んでどれを持って行かうかと戸惑ひして居る状態であります。茲で支那の石炭の最近の状態の概略御話致して見ましよう、戦争が始まりましたので開鑛とか、或は井陘とか色々な炭坑が罷業になったり。設備が破壊されたり或は人力が不足したりしまして所謂支那の石炭の生産が減たのであります。元來上海には石炭が一番多く集て参りますのですが、あすこの

第 4 表 昭和 13 年上海入荷別

年 月	日 本	滿 洲	支 那	外 國	計
13年 1 月	—	—	67,464	56,346	143,810
" 2	754	—	109,141	22,907	132,820
" 3	2,306	—	125,209	22,310	149,825
" 4	2,780	—	78,976	16,193	97,949
" 5	5,190	—	71,987	35,723	112,900
" 6	3,900	—	80,038	24,591	108,529
" 7	2,940	2,340	80,305	55,052	140,637
" 8	18,437	1,620	76,498	109,743	206,298
" 9	19,326	—	72,110	137,931	229,317
" 10	39,770	3,970	88,480	163,483	295,823
" 11	101,015	1,850	86,127	109,207	298,199
" 12	57,751	—	86,809	95,972	240,531
計	254,189	9,780	1,043,147	849,574	2,156,670

石炭の集り方を第 4 表に就て見ますれば、戦争後は支那の生産が減りまして。さうして外國からの輸入が殖えて居

ります。日本も殖えて來て居ります。日本は 13 年 2 月 754t であつたのが 2,300t になりまして、さうして 11 月には 10 萬 t になつた。昭和 13 年の合計は 23 萬 t になつて居ります。外國からの石炭は合計 85 萬 t ばかりになつて居ります。是は現在日本の軍隊も使て居りますが、要するに支那として要るのが、戦さの爲に支那國內の石炭が出なくなつた爲に是だけ外國の石炭が來て居りま

第 5 表 支那石炭輸入比較

	(1937)	(1938)		(1937)	(1938)
英 印	2,645	281,876	蘭 印	13,871	17,053
臺 灣	26,179	74,630	關東租借地	58,633	9,673
佛 印	272,585	482,067	其 他	3,688	73,441
香 港	1,539	17,306	合 計	426,906	1,071,843
日 本	47,761	135,796	金額 (4,987,734)円	20,809,306円	

す。此輸入先を第 5 表によつて見ますと云ふと、1938 年に臺灣が 7 萬 t になつて居ります。それから英領印度が 28 萬 t で佛印の如きは 40 萬 t で 1937 年の倍になつて居ります。斯う云ふ風な状態で日本と臺灣とで既にもう 20 萬 t ばかりになつて居ります。それに外國炭の數量が是で以て 80 萬 t ばかり殖えて居ります。是は何を意味するかと云ふと若しも、大同炭が一番手近く採掘出來ますから今此大同炭の石炭に就て考へまするならば、是れを上海に送たとするならば英印とか佛印からの輸入數量は皆抑へられた譯です。それから日本から來る 20 何萬 t と云ふものは内地各工場で石炭飢饉で喘いで居る折りから誠に貴重な石炭であります。此石炭 20 萬 t 餘りを支那に送ると云ふ事は誠に惜しい譯であります。而も内地から支那に送るに不足勝ちの船も使用する事になります。同じ一隻の船でも塘沽から上海に向けて支那石炭を運ぶ方が數倍意義があると考へます。船舶の不定、ライターの不備と云ふ事は事變下の今日勿論止むを得ぬ事ではありましようが少なくとも斯様云ふ方針で支那開發に考へを及ぼす可きであります。北支中支南支或は滿洲國と云た風に別々各個に事業を計畫してわいわい騒いで居る様では反て物の進行を妨げる結果とならぬかを心配致して居ります。殊に持たざる國の所謂資源を得んが爲に支那への進出となつたと假定するならば、必ず我國として現世界情勢に對する我帝國不動の決意を考へるならば何より先に鐵と石炭である。支那の建設に就ては數へても當らぬ事業はあるでありましようが機材の不足人的資源の拂底の今日各産業に手を出す事は恰も材料不足で澤山の家を建て初めると同様建た家は皆同じ様に屋根が半分戸が半分と云た風に未完成の家許り揃て一軒も人間が住む

體裁とならぬ、これでは駄目です。計畫は多くても可なりですが、ある機材を以て一つ一つを完成させて行けば出來た家は少なくともその家丈は人が住む事が出來る譯けです。よろしく重大資源の鐵と石炭を先優的となし支那内國當局の一直線的連絡を保持して其開發に精進すべきであると考へます。従て今後鹽の問題もありましょうし、羊毛もありましょう、又農産物其他のものに進んで行かなくちやならぬでしょうが前述の理由で第一に鐵と石炭と云ふものに手をつける。而して其大略の方針が決定致しましたら次に重要な資源に手をつけると斯様な風に漸進主義で行く可きであります、さう云ふ風に考へて來ますと長江沿岸の鑛石は事變前年間 180 萬 t 位の供給が保證されて居たのですから我國の勢力範圍になつた以上は 200 萬 t とか 300 萬 t とか云ふ標準ではいけない既に我國としては 500 萬 t、1,000 萬 t と云ふ位の目標で行かねば考へが小さすぎます。

大冶鐵山に續いて漢口の漢陽製鐵を見て參りました。漢陽製鐵は殆どと云て宜い位能く破壊されて居りました。平爐は殆ど根こそぎに壞されて居ります。唯ガス發生爐が 6 臺の中 2 臺殘骸を止める程度で、加熱爐、壓延爐、熔鑛爐は殆ど一物もないやうに破壊されて居ります。其の破壊の秩序立て居ることから考へましても餘程前から計畫して居たものと思ひます。使用可能の品物は箱に入れまして、さう

して運搬の出來る様にしております。其の他取亂されて居るスクラップの如きはちよつと見た處 3 萬 t 位ありますが、沿岸に建設されたガーダーの脚を破壊されたのがありましたが、これ丈でも 800 t 位のスクラップになります。目下日鐵の大冶出張所の手でやっておりますがこれも資金の關係で大藏省との關係がなかなか六ヶ敷手放しの活動も出來ぬ様に聞きました。産業開發に對しては今少し徹底的な活動が出來るやうに仕組まねばうそであると存じます。

従ひまして皆さんに於かれましては支那に對する認識を深めると同時に政府の命これ服従するばかりでなく充分と意見を吐露し知らざるは教へ従ふ可きは従て産業開發と云ふ重大課題に對し、大陸大工業の見識を以て進んで頂き度いと思ひます。殊に鐵鑛石と石炭に至りましては咽喉から手が出るやうに欲しかったものが直ぐ目の前に見え而も我勢力範圍に歸せんとして居る秋是れを正確なる認識のもとに其擴充を計ることこそ初めて日本が資源を支那に求め永遠の東洋の平和を期せらるゝ所以であると信じます。私の講演はこれで終ります。御靜聽を感謝致します(拍手)。

○吉川晴十君 御質問がありましたらどうぞ願ひます……御質問はありませぬか……それでは、兒玉調査官殿には公務非常に御多用中の所、特に本會の爲に御講演下さつて誠に感謝に堪へない次第であります。再び拍手を以て御禮を申し上げたいと思ひます(拍手起る)

鐵と鋼 第 25 年 第 10~11 號
鐵の滲炭並に鋼の脫炭現象の定量的研究

正 誤 表

	頁	簡 所	誤	正
1	852	右列、上より 7 行目	C	c
2	853	右列、上より 14 行目	P	P ₃
3	〃	右列、下より 18 行目	N ₂	N ₃
4	〃	右列、下より 9 行目	C	c
5	855		第 5 圖	第 4 圖
6	〃		第 4 圖	第 5 圖
7	869	右列、上より 3 行目	結 界	結 果
8	860	顯微鏡寫真下部説明中	寫真第 6, 9	寫真第 6, 7, 9
9	863	第 6 表、右より 8 列、下より 6 行目	132'05	232'05
10	〃	第 6 表、右より 1 列、下より 6 行目	21'10	21'18
11	864	第 7 表、左より 3 列、上より 2 行目	BaCO ₃ (重量%)	BaCO ₃
12	865	顯微鏡寫真下部説明中	硝・腐 蝕	硝酸腐蝕
13	867	第 18 圖、縦軸		Percent recidal CO ₂ after reaction
14	868	左列、上より 5~6 行目	膨脹に從て	膨脹、從て
15	869	第 22 圖、右側縦軸	per hr	by cementation
16	871	左列、下より 7~6 行目	第 24 圖	第 23 圖
17	947	第 29 圖、縦軸	by cementation	per 10 min
18		各顯微鏡寫真圖に於て、寫真第 1, 2, 3, 4, 8, 80, 81 は其外枠の圓の直徑は 60mm、其他は孰れも 50mm であつたが、本誌に於ては夫々種々の大きさに縮小せられたので、倍率は正しからざることゝ成つた。		